

群 教 セ	G01 - 04
	令7.290集
	国語 - 高

説得力のある意見文を書くことのできる生徒の育成

——題材文の論理展開に基づいた構想メモの作成と
他者からの批評による構想メモの改善を通して——

特別研修員 松本 侑馬

I 研究の概要

1 主題設定の理由

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編では、今回の改訂の趣旨及び要点について、高等学校国語科で「話し合いや論述などの『話すこと・聞くこと』、『書くこと』の領域の学習が十分に行われていない」という中央教育審議会答申における指摘を受けて、「『古典探究』を除く科目において、〔思考力、判断力、表現力等〕に『書くこと』の領域を設け、論理的な文章、文学的な文章、実用的な文章を書く資質・能力の充実を図った」と記載されている。「論理国語」において、「読むこと」領域で80～90時間に対して「書くこと」領域で50～60時間の授業を行うよう明記されていることから、「書くこと」領域の指導の充実に向けた取組をしていく必要があることが分かる。

また、同解説では「論理国語」の性格について、グローバル化や情報化が進む社会において「立場や考えの異なる他者との的確な意思疎通や共通理解、課題を発見しその解決を導いていくための創造性や合理性を重視した他者との協働などがより重要になる」中で、「自らの主張や考えについても、相手に受け入れられるよう、論拠に基づいて効果的に構築する資質・能力の育成が必要」とされている。「論理国語」の「書くこと」領域においては、立場の異なる相手に受け入れられるように論拠に基づいて主張を構築する資質・能力の育成が求められているということである。

研究協力校の生徒は国語の授業において、教員の説明を熱心に聞いて知識を身に付け、それを基に題材文の内容や読解の方略についてグループで意欲的に話し合う様子や、研究論文を参照しながら文学作品を探究的に読み、自分の考えをスライド資料にまとめて堂々と発表する様子が見られる。

一方で、意見文を書く際に自分の主張や根拠を見つめ直し、説得力を高めることには課題が残る。1学期に行った「書くこと」の単元でも、示された型やルールに則って書くことはできるものの、異なる立場の読み手を想定することや主張の根拠付けは十分ではなかった。

そこで、本研究では「説得力のある意見文を書くことのできる生徒の育成」を主題として設定した（図1）。ここでは意見文を

「他者の考えや行動の変容を促すために自らの主張や考えを表現する文章」と位置付け、意見文を構想し書き上げる過程を通して、多面的・客観的な視点から自分の考えを吟味し、立場の異なる読み手を説得できるような意見文を書く力を身に付けさせることをねらいとした。

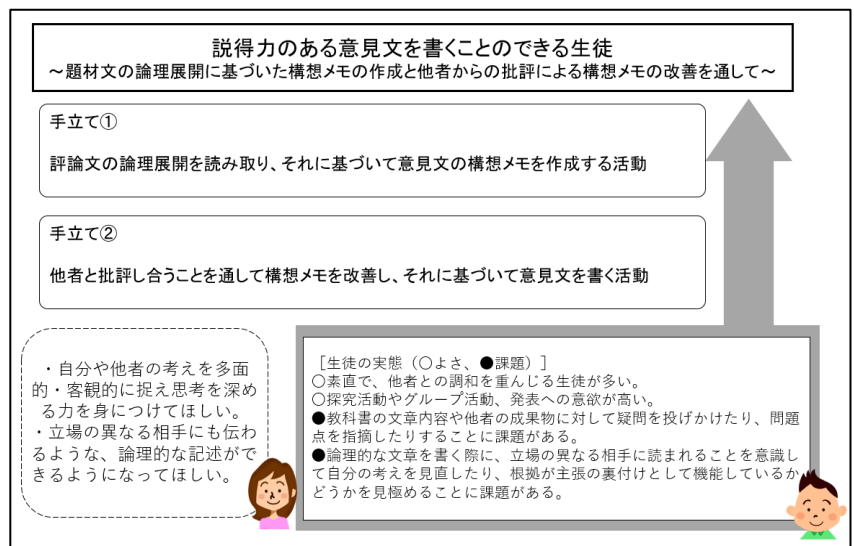


図1 研究のイメージ

2 具体的な手立て

手立て1 評論文の論理展開を読み取り、それに基づいて意見文の構想メモを作成する活動

説得力のある文章の参考例として、教科書に掲載された評論文を用いる。今回扱った中村桃子「言葉がつくる女と男」は、始めに論点と主張を述べ、次に一般的な考えとその問題点を指摘し、自説の根拠となる新たな考えを展開して、再度主張を詳しく述べる、という論理展開が明確な文章である。生徒はこの論理展開に当てはめながら、教員が示したテーマについて意見文の構想メモを作成する。

手立て2 他者と批評し合うことを通して構想メモを改善し、それに基づいて意見文を書く活動

自分が書く意見文への多面的な視点を得るために、手立て1で作成した構想メモを生徒相互に批評し合う活動を行う。批評の着眼点は、題材文の論理展開の要点である「根拠は主張の裏付けとして機能しているか」（主張と根拠のつながり及び根拠の客観性への批評）、「異なる立場の考えの分析的確か」（異なる立場の想定及びそれに対する批判への批評）の2点に限定することで、批評コメントをもとにした構想メモの吟味・改善につなげやすくする。また、匿名で批評を行うことで、生徒が相互に忌憚のない意見を出しやすいよう配慮する。

その上で、他者からの批評コメントに基づいて構想メモを改善し、意見文を作成する。

II 実践例

1 単元名 「題材文の論理展開を活用して、説得力のある意見文を書こう」

題材名 「言葉がつくる女と男」中村桃子（『精選 論理国語』三省堂）
（第2学年・2学期）

関連： 「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること。（A書くこと(1)エ）

2 授業の実際

本単元は全8時間構成で実施し、単元前半に手立て1を、単元後半に手立て2を講じる。

(1) 手立て1について

手立て1は、第1時から第4時にかけて講じた。

① 題材文の論理展開をつかむ段階（第1-2時）

初めに「意見文に説得力をもたせるための工夫は？」という問いについて、Canvaのワークシートを用いてKJ法で生徒の意見を集約した。多くの生徒は「具体例」や「根拠」といった文章を構成する「要素」についての意見を挙げた。

次に題材文を読み「筆者の主張の納得感はどうだった？」と問いかけた。ほぼ全員が「納得した」と回答した。

「では、その納得感はどのような工夫から生じているのだろうか？」という発問につなげ、ワークシートを用いて題材文の論理展開を分析する活動を行った。題材文の内容を

「A論点と主張」、「B異なる立場の考え方」、「C異なる立場の問題点」、「D主張の裏付けとなる根拠・主張と根拠のつながり」、「E主張をより詳しく」の五つのパートに分け、各パートで書かれている内容を分析し、それらが題材文の論理展開においてどんな役割をもつか確認した（図2）。

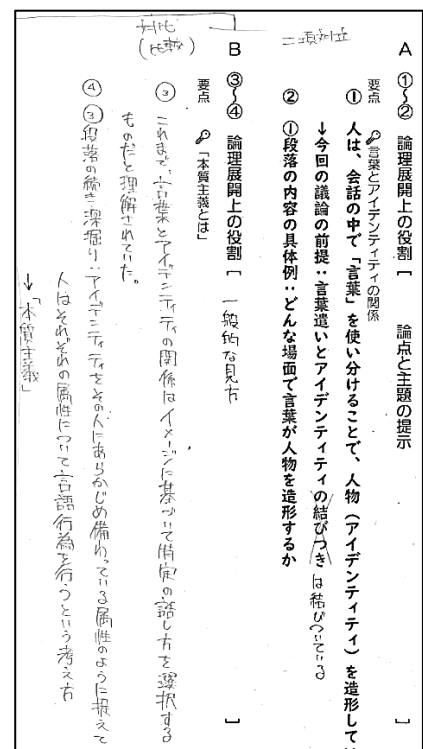


図2 題材文の分析

2. 本文の分析から見えた、説得力の工夫

この段階の最後には、題材文の分析に基づいて、再度意見文に説得力をもたせるための工夫について考えた。ここでは、「哲学者の著書からの引用」のように一学期に「書くこと」単元で学習した内容が加わるとともに、「本質主義と構築主義の二項対立」や「一般的な見方の問題点を提示することで、反対意見（筆者の主張）に誘導し説得力をつけている」などの文章の「論理展開」に関わる意見が出てきた（図3）。題材文の分析によって、生徒の視野が「要素」という小さな単位から、文と文、段落と段落のつながりや文章全体という大きな単位に広がっていった様子が見て取れる。

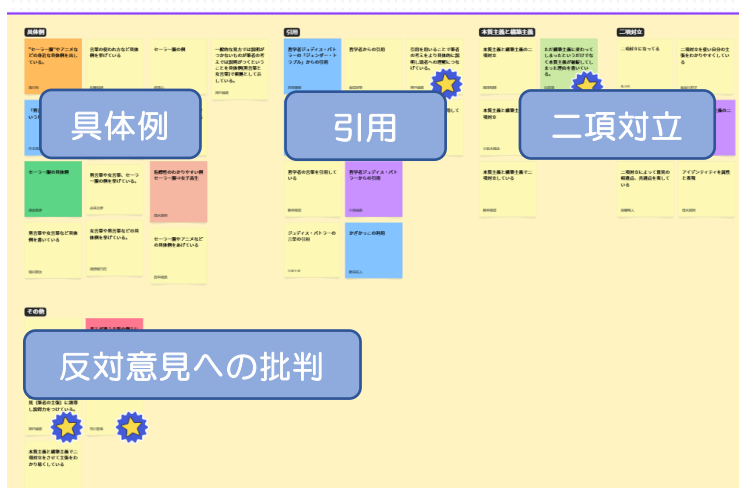


図3 説得力をもたせる工夫についての意見

② 構想メモを作成する段階（第3-4時）

初めに構想メモの作成方法について Canva のワークシートで学習した。その際、説得力を高めるためのポイントとして、社会に受け入れられるような公共性のある主張を目指すこと、主張と根拠の結び付きを丁寧に説明すること、自分とは異なる立場の問題点を的確に指摘すること、を共有した。

次に、教員が二つのテーマ（学校制服は廃止すべきか、16歳未満のSNS利用は禁止すべきか）のうち一つを各生徒に割り当て、意見文の構想メモを作成した。自分の主張の根拠が見つからないときに活用できるよう、補助資料としてテーマに関連する統計資料を提供した。ただし、自分の主張の根拠となり得る情報について、自分で妥当性を判断し、主張と関連付ける力を付けてほしいという観点から、教員の示す統計資料以外の情報検索はしないこととした。

(2) 手立て2について

手立て2は、主に第5時に講じた。本項ではこの手立ての具体的な内容を示し、学習を通じた生徒の変容の過程はIV資料の表2に示す。

① 構想メモを批評し、改善する方向性を決める段階（第5時）

この段階では、多面的な視点を取り入れて構想メモを改善するための批評会を行った。事前準備として、前時に作成した構想メモからA～Eの各項目において説得力のあるものを選んで Canva のワークシートに転記させておいた。本時の冒頭で批評の着眼点として「根拠は主張の裏付けとして正しく機能しているか」、「異なる立場の考えの分析は的確か」の2点を示し、批評内容が相手に伝わりやすいようにした。また、匿名のワークシートに匿名で付箋を貼るという形式を伝え、忌憚のない相互批評活動ができるよう配慮した。最初の活動では、生徒個人で構想メモを読み、気になった記述について疑問または助言を付箋に記入した。次に、4人組のグループで、個人活動で貼った付箋の内容について議論し、評価として「完璧にできている」、「まだ伸び代がある」、「よく考え直すべき」のいずれかに○をつけた。

実際の批評会では、上記の工夫の影響か、明確な着眼点の下で論理的に思考・議論を深め、鋭い批評コメントを記入する生徒の様子が見られた。

最後に、他者からの評価や批評コメントを参考に、自分の構想メモを改善した。

② 構想メモを改善し、意見文を作成する段階（第6-7時）

この段階では、構想メモを改善し、それをもとに、前述したA～Eの5段落構成で意見文を作成した。構想メモの改善は、題材文を分析したワークシートや根拠の材料としての統計資料を参

照したりするなど、これまでの単元学習を振り返りつつ行った。その上で、改善された構想メモを手がかりに Google スプレッドシートの原稿用紙ワークシートに意見文を書き進めた。

③ 作成した意見文を批評し合い、単元の学習を振り返る段階（第8時）

初めにグループのメンバー同士で意見文を読み合い、構想メモの批評と同様の着眼点から Google スプレッドシートのワークシート上で批評コメントを共有した（図4）。

最後に、グループのメンバーからももらった批評コメントをもとに、単元の学習を通してどのような力が身に付いたのかを自由記述で振り返った。表1は、その内容を分類しまとめたものである。ほぼ全員の振り返り記述で、説得力のある文章を書くために必要な観点である①～③の要素が見られた。

や 自 由 化 を 求 め る 声 も 高 ま っ て い る 観 点 に	近 年 、 多 様 性 や 個 性 を 尊 重 す る 観 点 に	こ の 日 本 の 学 校 文 化 を 象 徴 す る 制 服 に	て 、 生 徒 が 着 用 す る 制 服 が 指 定 さ れ て	現 在 、 全 国 の ほ ん と ど ろ さ べ て の 学 校	評価者： ①根拠は主張の裏付けとして正しく機能しているか 「家庭の経済的な差が見えやすくなる」という根拠が 実際の意見を取り入れていてよかった ②異なる立場の分析は的確か 「 」という記述について、 ③その他 主張の根拠の支えになる具体例がたくさんあって、主 に納得できた。
					評価者： ①根拠は主張の裏付けとして正しく機能しているか 「海外の寄宿学校～」という根拠づけについて、実例 もあるから根拠としてわかりやすい。 ②異なる立場の分析は的確か 「 」という記述について、

表1 生徒が身に付けた力

身に付いた力 (自由記述)	延べ人数 (割合)
①説得力のある文章を 書く力	96/184人 (52%)
②多面的・客観的に 主張や根拠を捉える力	101/184人 (55%)
③自分の考えを 吟味する力	66/184人 (36%)

図4 意見文記述用ワークシート

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 手立て1について、あらかじめ用意された「型」に当てはめるのではなく、生徒自身が「納得した」と回答した題材文の論理展開を活用することで、既習の題材を模範として、主張と根拠の関係を確かめながら構想メモの作成を行うことができた。
- 手立て2について、匿名の批評会を通して多面的な視点を取り入れ、書く内容や論理展開を吟味することができた。また、他者への批評を考えることで自分の文章内容を客観視し、改善する力も身に付いた。

2 課題

- 手立て1について、題材文という具体的な文章から論理展開という抽象的な概念を抽出し、別のテーマに合わせて具体化する過程の難易度が高く、教員主導で行わざるを得なかった。「読むこと」の単元で、論理展開や段落ごとの役割について学習を深めていく必要性を感じた。
- 手立て2について、批評コメントをもとにした構想メモの改善の仕方を具体的に示さなかった結果、十分に改善を行うことができなかつた生徒もいた。構想メモの改善の過程にも思考過程を明確化するような手立てを検討し、より充実した活動となるようにしたい。

IV 資料

表2 手立て2による、学習を通じた生徒の変容

	生徒A：学校制服は廃止すべきでない	生徒B：16歳未満のSNS利用は禁止すべきでない
構想メモの記述の一部	<p>A 主張と論点 制服は廃止するべきではない。生徒の個性は服装ではなく、考え方や行動で表すべきだと思う。</p> <p>D 主張の裏付けとなる根拠・主張と根拠のつながり 個性は服装以外にも十分表せる。制服があることで、見た目よりも中身を見てもらえる環境になる。</p>	<p>B 異なる立場の考え方 ・目が悪くなる ・犯罪に巻き込まれたり、事故にあう可能性がある ・炎上の恐れ</p> <p>C 異なる立場の問題点 ・外にいるとき見たいときにニュースが見れない</p>
他者からの批評	<p>疑問・助言 「見た目よりも中身を見てもらえる」という記述について、独りよがりな根拠になっていると思った。</p> <p>疑問・助言 「制服があることで、見た目よりも中身を見てもらえる環境になる」という記述について、そういう根拠が入っているといいと思った。</p>	<p>疑問・助言 「外にいるときに見たいニュースが見れない」という記述について、異なる立場の考え方と関係性があつたほうがいいと思う。</p> <p>疑問・助言 「外にいると見たいニュースが見れない」という記述について、異なる立場の考え方とつなげるといいと思う</p>
批評による気づき	根拠となるような客観的なデータなどを探して、より説得力のある主張につなげていきたいです。	異なる立場の考え方と異なる立場の問題点を関連付ける
作成した文章の一部	<p>「D」その一方で、個性は服装以外にも十分表せる。なぜなら、制服があることで、見た目よりも中身を見てもらえる環境になるからだ。たとえば、海外の寄宿学校や名門校が制服を維持しているのは、生徒が服装の競争から解放され、学業や人格の形成といった本質的な部分で個性を磨き、競い合う環境を重視しているためである。制服という共通の枠組みがあるからこそ、生徒は部活動での活躍、生徒会でのリーダーシップ、ディベートでの発言など、行動や思考において真の個性を発揮することに集中できる。</p>	<p>「B」近年、16歳未満のSNS利用は精神面、安全面、健康面でのリスクが大きく、SNSの過度な使用は集中力や睡眠を妨害し、健康を害する恐れや、個人情報流出、ネットいじめなどの被害に遭う可能性があるという意見もある。しかし、SNSの利用を禁止するとSNSの危険性やルールを学ぶ機会を奪ってしまう現代で必須の情報リテラシーを身に着ける機会を失ってしまう。いくら安全性が高くとも情報リテラシーを身に着けていなければ社会に出たときにSNSをうまく使いこなせなくなってしまうだろう。SNSを利用すること</p>
振り返り記述	<p>「D」主張の裏付けとなる根拠に海外の寄宿学校や名門校の具体的な事例を取り入れた。</p> <p>批評会でもらったアドバイスを参考に、主張の根拠を深掘りし、具体的な例を出した。</p>	<p>「C」異なる立場の問題点」に、 「B」異なる立場の考え方」に対する批判を取り入れた。</p> <p>自説だけでなく異なる立場の意見、その問題点を指摘することで、自分の意見をより主張し、説得力のある文章を書けるようにした。</p>

本報告書に掲載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標または登録商標です。Google スプレッドシートは、Google LLCの商標または登録商標です。Canvaは、Canva Pty Ltdの商標または登録商標です。